

2022年9月吉日

健保だより 75

新電元工業健康保険組合
理事長 新関 清司

日頃より健保組合の取組みに対し、ご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

3年ぶりに行動制限要請の無かった今年の夏、皆様、いかがお過ごしでしょうか。暑さも新規感染者数拡大の勢いも、もう暫く続きそうですが、体調管理にご注意ください。

近年、がんは早期発見出来れば十分治療出来る病気になってきました。ただ、がんの早期発見の為に、市区町村や会社の健康診断だけでなく「がん検診」を受けた方がいいということをご存知でしょうか。

『健診』と『検診』同じ「けんしん」という読み方でも、意味がそれぞれ違います。

『健診=健康診断』は、その名の通り健康に問題がないかどうか調べる目的で行われ、今現在何らかの病気を発症していないかどうか、今後何らかの病気を発症するリスク因子があるかどうかを確かめる為のものです。これに対し『検診』は、ある特定の病気にかかっているかどうかを調べる目的で実施されます。

ちなみに、「がん検診」が「胃がん検診」「肺がん検診」「子宮頸がん検診」などと細分化されているのは、対象のがんだけを正確に診断出来る様にする為です。

がん検診には「対策型検診」と「任意型検診」の2種類があり、対策型検診は例えば会社全体、自治体全体など「その集団全体」でのがんの死亡率を下げる為のもので、任意型検診は個人のがんの死亡リスクを下げる為のもので、前者は主に会社や自治体が行うがん検診などがあてはまり、後者は人間ドックなどの自主的に行うがん検診があてはまります。

健康診断では、あくまでその時健康であるかどうか、病気になる明らかなリスクがないかどうかを調べる検査です。ですから、ごく初期状態でまだ症状の出していないがんなどは見落とししてしまうこともあります。

がん検診を受ければ、健診では見つけれない様な「自覚症状がないごく初期のがん」を発見出来ますし、その段階で発見出来れば進行前にかん治療を始められる為、それだけ治癒率も高くなります。

また、子宮頸部や大腸などのがん検診では「がんになる前の病変」を発見出来ることもあり、その場合はがん化する前に治療を始められます。

「沈黙の臓器」と言われる肝臓のがんの様に、がんのなかには自覚症状を感じる頃には既に手遅れになってしまっているがんも少なくありません。手遅れになる前に治療を始めるには「出来るだけ早くがんを見つける」ことが大切であり、その為には定期的ながん検診が役に立つのです。

がんの早期発見の為に、「症状が出てから」ではなく「症状が出るよりはるか前」に検査を行う必要があります。ですから、症状が出ていないからといって油断をせず、市区町村や会社、人間ドックなどをうまく利用しながら定期的に「がん検診」を受け、がんの早期発見に備えることをお勧めします。

以上